

北斗市・総合戦略〔骨子案〕

第1 基本的な考え方

- 1 戦略策定の趣旨
- 2 戦略の期間
- 3 基本目標
- 4 効果的な推進に向けて

第2 基本目標に基づく施策の基本的方向・主な施策

【基本目標1】 北海道新幹線開業効果を活かした産業の振興と雇用をつくる

(安定した雇用を創出する)

- 1 基本的方向
- 2 主な施策

【基本目標2】 北斗市らしさを活かして人を呼び込み・呼び戻す

(地方への新しい人の流れをつくる)

- 1 基本的方向
- 2 主な施策

【基本目標3】 子どもを生み、育てたいという希望をかなえる

(若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる)

- 1 基本的方向
- 2 主な施策

【基本目標4】 住み続けたいという暮らしの環境をつくり、守る

(時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する)

- 1 基本的方向
- 2 主な施策

第1 基本的な考え方

1 戦略策定の趣旨

国の「長期ビジョン」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案し、将来予想される人口減少問題の克服に向け、今後5か年の政策目標や施策の基本的方向、主な施策を示すもの。

また、行政をはじめ、市民や団体・企業が協働して取り組むことが望ましい施策も示していく。

2 戦略の期間

平成27年度～平成31年度

3 基本目標

- (1) **北海道新幹線開業効果を活かした産業の振興と雇用をつくる**
(安定した雇用を創出する)
- (2) **北斗市らしさを活かして人を呼び込み・呼び戻す**
(地方への新しい人の流れをつくる)
- (3) **子どもを生み、育てたいという希望をかなえる**
(若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる)
- (4) **住み続けたいという暮らしの環境をつくり、守る**
(時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する)

4 効果的な推進に向け

- (1) 自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視の5原則をふまえた施策の推進
- (2) 基本目標とKPIによるPDCAサイクルの展開

《参考》

KPI = Key Performance Indicator の略称で「重要業績評価指標」のこと。総合戦略では、施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標のことをいいます。

PDCA = Plan (計画)、Do (実施)、Check (評価)、Action (改善) の略称で、総合戦略のマネジメント手法として取り入れます。

- (3) 市民や産官学金労言の参画による推進体制の構築

第2 基本目標に基づく施策の基本的方向・主な施策

【基本目標1】

北海道新幹線の開業効果を活かした産業の振興と雇用の場をつくる

(安定した雇用を創出する)

数値目標 (新規雇用数を検討中)

1 基本的方向

- 人々が地域に定着するためには、地域経済の活性化を図り、多様な人材が自らの能力を十分に発揮し、生活の糧となる安定的な所得が得られる就業の場の確保やまちの創造が必要。
- 北海道新幹線の開業効果を多様な産業へ波及させるため、北斗市の個性や魅力を活かし、交流人口を拡大する観光振興の取り組みを重点的に進める。
また、交通アクセスの拠点機能を活かした新函館北斗駅周辺への商業・サービス業の企業立地を促進し、地域経済の活性化と雇用の場をつくる。
- 北斗市で培われてきた一次産業は、高収益化や6次産業化の取り組み等の促進により、若い力が魅力を感じられる産業に育てる。

2 主な施策 ※骨子では今後、具体の取り組みを検討する上での考え方を示しています。

(1) 観光振興による産業活性化と雇用の創出

- ① きじひき高原、北斗桜回廊などの観光資源の磨き上げや基盤整備、また、北斗市の特徴的な一次産業や伝統を活用した体験観光メニューの開発などによる誘客促進。
- ② 新函館北斗駅に併設される観光交流センターの整備、観光案内所の受け入れ体制と機能の充実。
- ③ 新函館北斗駅周辺地区へのホテル・物産館施設の立地促進やアンテナショップ（観光交流センター内）の利用促進、公共交通サービスの充実等による他産業への波及拡大。
- ④ 外国人観光客の受け入れ体制の整備。
- ⑤ イベントやプロモーション、メディア活用による北斗市の魅力発信の積極展開。
- ⑥ 新函館北斗駅周辺の基盤整備や賑わい創出、情報発信の強化、また、スポーツ合宿の誘致や各種会議、交流イベント開催など、交流人口の拡大による経済活動の活発化。

(2) 企業立地の促進

- ① 新函館北斗駅周辺地区への商業・サービス業の企業誘致の一層の推進。

- ② ヒトやモノの流れや経済情勢の変化に対応できるよう、流通・製造業などの企業立地の検討のほか、北海道と連携し本社機能等の誘致を推進。

(3) 既存産業の育成支援や活性化対策

- ① 中小企業振興資金や起業化振興資金などの金融支援と、新商品開発支援等による備投資や経営の安定化などのバックアップ。
- ② 北斗市の新たな「食」の確立・ブランド化、観光客や市民への普及・消費を促進し、他産業への波及効果を拡大。

(4) 一次産業の高収益化と担い手づくり

- ① 農業は、水稲と野菜の複合経営による高収益化を図るため、施設園芸の取り組みを一層推進。また、水産業は、「つくり育てる漁業」を進め、漁獲高の安定化を促進。
- ② 農水産物の直販施設の設備・サービス充実を進め、増加する交流人口への販売機会を拡大
- ③ 林業は、適切な施業による森林保全とともに、道南スギの活用を促進
- ④ 作業の効率化・省力化により、一次産業の収益性の向上を図り、後継者確保や新規就農者の参入を促進。

(5) 若い世代の雇用機会づくり

- ① 若者の地元就職を促すためのインターンシップ受入促進や地元企業の情報発信、また、U・I・Jターン促進のための就職情報の発信

【基本目標 2】

北斗市らしさを活かして人を呼び込み・呼び戻す

(地方への新しい人の流れをつくる)

数値目標 (社会動態の減少抑制を検討中)

1 基本的方向

- 他地域からの人口の流入促進を図るため、積極的な人の呼び込み、転出者の呼び戻しが必要。
- 新函館北斗駅の周辺整備を行い、交通アクセスの拠点機能をつくり、交流人口の拡大やIターン・Uターンを含む移住・定住の促進策を推進。

2 主な施策 ※骨子案では今後、具体の取り組みを検討する上での考え方を示しています。

(1) 交流人口の拡大

- ① 新函館北斗駅周辺の基盤整備や賑わい創出、情報発信の強化、また、スポーツ合宿の誘致や各種会議、交流イベント開催など、交流人口の拡大による経済活動の活発化。[再掲]
- ② スポーツ合宿や市民との交流の受け皿となる環境・基盤の整備を推進。

(2) 移住・定住の促進

- ① 地域に住むこと、地域に戻り暮らすことの良さや豊かな自然への気づき、しごとなどについて、国や道の移住促進機関や民間団体などと連携した移住促進情報の発信、また、一時的なしごと・居住体験の実施などPR活動の展開。
- ② Iターン・Uターン、新幹線効果による距離感短縮を活かした職場と居住の提案など多様なライフスタイルへの対応、また、空き家対策といった地域課題の対応をふまえた居住環境づくり。
- ③ 行政・市民・企業の一体的な情報発信や受け入れ体制づくり。

【基本目標3】

子どもを生み、育てたいという希望をかなえる

(若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる)

数値目標 (合計特殊出生率を検討中)

1 基本的方向

- 人口の自然減の克服には、出生率の向上が重要であり、結婚や出産が個人の意思に基づくものであることを尊重しつつ、行政や市民、関係機関が共通認識を持ち、結婚し、安心して子どもを生み育てたいと思う方々の希望をかなえることを目標にする。
- 未婚化・晩婚化は全国的な傾向であることから、国や道の取り組みと合わせ、人口問題に関する社会気運を醸成していくとともに、子どもは地域社会の将来を担う大切な存在であるとの原点に立って、子育て支援や教育環境づくりを進める。

2 主な施策 ※骨子では今後、具体の取り組みを検討する上での考え方を示しています。

(1) 子育て支援の推進

- ① 安心して子どもを生み育てる環境を向上させるため、子どもの医療費助成や給食費減免など子育て世帯の経済的な負担を軽減するほか、放課後児童クラブの拡充などによる子育てサ

ービスの充実により、子育てと仕事の両立を支援する。

- ② 妊娠・出産期からの親子の健康を保つために、各種検診や相談体制の充実、食育や保健対策などを推進する。

(2) 子どもの力を引き出す教育環境づくり

- ① 学ぶ意欲を高めるとともに、確かな学力の向上を図る。
- ② 各種大会への参加支援等を通じて文化やスポーツ活動を促進し、健全な心身を育む。

(3) 社会気運の醸成

- ① 未婚化・晩婚化は、全国的な広域かつ複眼的な対応が重要であり、市としてきめ細かなPRや相談・連携体制をつくる。

【基本目標 4】

住み続けたいという暮らしの環境をつくり、守る

(時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する)

数値目標 (人口動態で検討中)

1 基本的方向

- 市民が安心して暮らすためには、必要なサービスを提供し、満足度を高めていくなど、そこに住み続けたいと思える生活・定住環境が必要。
- 地域コミュニティは暮らしにおいて重要な機能であり、様々な地域課題を解決する「地域力」の基盤となるものですが、人口減少が進むことによって、その機能の低下が懸念されており、地域のコミュニティ機能の維持や再構築を図る。
- また、医療や地域交通なども定住環境に必要な機能であり、市町村連携による広域的な視点や民間団体・企業の参加促進の観点も含めて、その機能をつくり、守る。
- 茂辺地・石別地区は他地区と比べ、人口減少が急激に進んでいるため、水産業振興とあわせて、地域の特色を活かした地域振興策を進める。

2 主な施策 ※骨子では今後、具体的な取り組みを検討する上での考え方を示しています。

(1) コミュニティ機能の再構築

- ① 町内会や市民団体などと行政との協働による取り組みを持続させるため、コミュニティ活動の環境整備、支援などにより、「地域力」の向上を図る。
- ② 移住者の新しい発想・行動力と地域との絆を深める応援体制づくり。

(2) 市町間連携によるくらしの機能の維持

- ① 関係市町との連携により、ドクターヘリや休日夜間医療などの医療環境とともに、道南いさりび鉄道やバス路線などの公共交通は利用促進を図りながら、公共交通を維持する。

(3) 茂辺地・石別地区の地域振興

- ① 身近な自然環境や低廉な地価など、地域の特色（優位性）を広くアピールするなどし、移住等の促進を図りながら人口減少を抑制。
- ② さけの遡上風景やトラピスト修道院などの観光資源の活用推進を通じ、交流人口や観光客の増加を促進。